週刊新社会号外 1533 号 新社会党へのご連絡は長南博邦（おさなみひろくに） TEL 7125-2627 E-mail hiro-osanami@tbf.t-com.ne.jp 第三種郵便物認可

週刊 新社会

9月1日

2015 年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600 円〒 164 円 1部 150 円〒 41 円
発行所：新社会党 http://www.sinsyakai.or.jp/ E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp
〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 三辰工業ビル3F Tel.03-6380-9960 Fax.03-6380-9963

中学校の歴史と公民
教科書採択結果は本
日県教委ＨＰで発表

コウノトリ空回り ふるさと納税低調
別基金創設し市民にも特典付与

野田市民からのふるさと納税にも特典！しかし、コウノトリ関連事業にはまわさず、「学校施設整備等基金」を設立して学校のトイレ改修等学校施設事業に使途を限るという議案が、９月議会に提出される見込みだ。

昨年 10 月から始まった野田市のふるさと納税制度は寄付先としてみどりのふるさと基金など６基金がある。しかし、特典が付くのは市外の方で寄付指定をみどりのふるさと基金に指定して１万円以上の寄付をした場合に限っている。

その場合、１万円ごとに黒酢米 15kg を送ることになっている（現在コウノトリ放鳥を記念して今年度に限り 5kg 増量中）。コウノトリ費用の確保が狙いだ。

市内居住者の特典はノックス券だが・・・

ところがこの狙い通りにはいかなかったのが昨年度半年分の実績。黒酢米という特典に食指が動かず、特典付きふるさと納税による寄付金はわずか 41 件で 55 万円。黒酢米のブランド力が弱いのか、特典でコメが選択肢に入らないのか、いずれにしてももくろみは大きくはずれた。

その反面、ふるさと納税で件数では７件と少なかったが、もっとも寄付額が多かったのは市内在住者からで 121 万 500 円（ふるさと納税寄付総額は 178 万 500 円）。

ここに目をつけたのが「学校施設整備等基金」であろう。この場合は新たに特典として、2000 円相当の「ノックス券」（野田市内共通商品券、NOX）を贈呈するという。これはふるさと納税で寄付金から控除される 2000 円分なので、同一年度では何十万円寄付しようが 2000 円分のみとなる。今度はノックスの認知度が問われる。

ただ、市民税の使途は市民が指定できないが、ふるさと納税を活用すれば市民が市税の使い道に関与できると考えられないだろうか。

また、この「学校施設整備等基金」については、市内小中学校を卒業した市外居住者がこの基金に指定すれば、みどりのふるさと基金指定同様、１万円ごとに 15kg の黒酢米がプレゼントされる予定となっている。

「調教師」の意のままの安倍政権

破産したホルムズ海峡機雷掃海になぜ安倍首相は固執したのか。それは指南書に書いてあり、彼の頭を支配していたためだ。指南書とは「第３次アーミテージ・ナイレポート」（2012 年８月公表）。

そこで日本は一流国でいるのか、二流国になるのかと迫り、一流国でいるために９項目を日本に提案している。その６項目に今回の「集団的自衛権」のあり方、７項目にホルムズ海峡の掃海が記されているのだ。

驚くべきことに、原発再稼働やＴＰＰ、秘密保護法も項目も入っており、日米同盟における提言では中国対策や日米の武器共同開発もある。アーミテージ氏などはジャパンハンドラーといわれている。ハンドラーとは調教師の意味だ！

おさなみ議員の一般質問

おさなみ議員の一般質問予定は、前号でお知らせした隔週土曜授業問題、教員の労働時間管理、学校冷房化などの教育行政に加え、住宅扶助費など生活保護費削減や手続き厳正化による受給者、生活保護行政に対する影響や生活困窮者対策について質問する。

さらに以前取り上げた「ゾーン 30」（時速 30km 制限エリアの設定）と、自転車交通の安全走行を図る自転車走行エリアなどの設置を求める。

自由と平和のための京大有志の会　　声明

戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終えるほうが難しい。
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

精神は、操作の対象物ではない。
生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。

学問は、戦争の武器ではない。
学問は、商売の道具ではない。
学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、
私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

8 月 30 日の国会包囲行動に参加した女性のＴシャツに「今年（くとうし） しむ月（ちち）や 戦場（いくさば）ぬ止み（とうどぅ） 沖縄ぬ思い（うちなーむ うむ） 世界に語（しけ かた）ら」の文字（注）。

上記は評判を呼んでいる７月２日に出された「戦争法案に反対する京都大学有志（教職員と学生）」の声明で、多言語に翻訳されており、子ども版もあります。

有志の会ウエブサイトには「『安保法制』、言論への威圧発言、大学への君が代、日の丸の強制、等、この間の安倍政権による平和の破壊、学問の愚弄、憲法の蹂躙を止めさせ、新時代の自由と平和を創造するために、このたび『自由と平和のための京大有志の会』を結成しました。学生、職員、教員たちで、勉強会や集会を通じて言葉を紡ぎ、京都から発信していきたい」と思いが記されてます。

（注）今年の 11 月こそ（昨年の県知事選の月）戦場にとどめを刺し、戦争を終わらせよう、沖縄の思いを広く世界に広めましょうという意味。

福祉は
一人ひとりのいのちを
限りなく大切にする
戦争は
多くの人びとのいのちを
虫けらのようにあつかう
福祉の批判がはじまると
他方で軍備はすすむ
福祉が軽視されると
戦争の足音が近づいてくる
福祉は
平和の基礎であり
政治の基本である。

右の文書は『一人ひとりの命を　福祉の街づくり・町田革新市政』の「おわりに」からの全文引用で、著者は大下勝正さん。大下さんは京都大学を卒業後、鈴木茂三郎日本社会党委員長の秘書をつとめ、70年に東京都町田市長に当選。「福祉の街づくり」で名を馳せた。

市長現職の１９８５年に発行されたこの本は、終章でまさに今の日本社会到来を警告し、社会のあるべき姿を描いている。90年に市長を勇退。